



取扱説明書

接点信号伝送装置 CST-220 (共通編)

このたびは、「接点信号伝送装置 CST-220」をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、内容を理解してからお使いください。お読みになったあとも、本商品のそばなどいつもお手元に置いてお使いください。

もくじ

ログイン・ログアウト	3
1. ログインのしかた	3
2. ログアウトのしかた	3
本体設定	4
1. ネットワーク設定	5
2. 動作モード設定	5
3. ログイン設定	6
4. 名称	6
5. 時刻	7
6. SNMP TRAP	8
メンテナンス	9
1. 登録値	10
2. ファームウェア更新	12
3. ログ一覧	13
4. 接点出力の手動操作	14
参考資料	16

ログイン・ログアウト

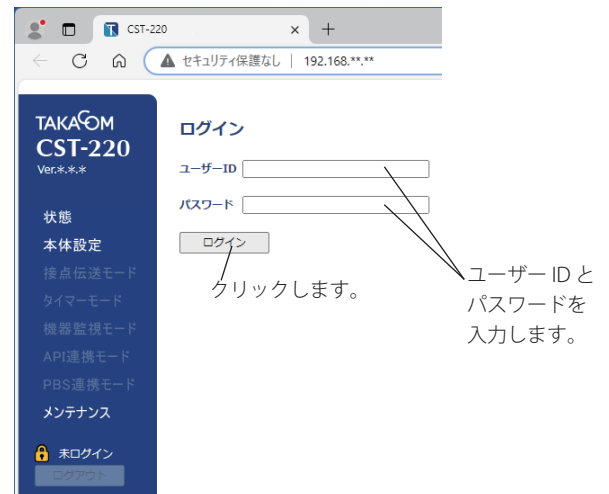
本装置の各種設定の変更などは、クライアントパソコンの Web ブラウザから本装置に接続したあと、ログインして行います。クライアントパソコンの仕様については、設置説明書を参照してください。

1. ログインのしかた

1

- ① クライアントパソコンの Web ブラウザを起動して、URL 入力欄に本装置の IP アドレスを入力後、キーボードの [Enter] キーを押します。
※ webポート番号を変更している場合は、IP アドレスの後ろにコロン (:) とポート番号を加えて入力します。
(web ポート番号 1234 の例)
http://192.168.**.*:1234/
webポート番号については、「本体設定 1.ネットワーク設定」(5ページ) を参照してください。
・【ログイン】画面が表示されます。
- ② ユーザー ID およびパスワードを入力して【ログイン】ボタンをクリックします。
・【状態】画面が表示されます。

例：Webブラウザ【Microsoft Edge】



ワンポイント

- 「本体設定」または「メンテナンス」をそれぞれクリックしてから手順②を実施すると、ログイン後に【本体設定】画面、または【メンテナンス】画面が表示されます。
- 正常にログインすると、画面左下のログイン状態が “ログイン済” と表示されます。



2. ログアウトのしかた

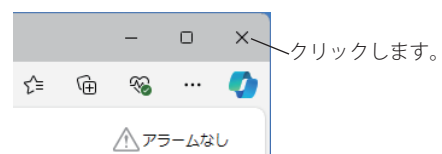
1

- ① 画面左下の【ログアウト】ボタンをクリックします。
・ログアウト確認画面が表示されます。
- ② [OK] ボタンをクリックします。
・ログアウトされます。



2

- ① Web ブラウザを終了するとき、[×] (閉じる) ボタンをクリックします。
・ログイン状態で Web ブラウザを終了した場合も、ログアウトされます。



ワンポイント

- ログアウトした状態で、「状態」「本体設定」「メンテナンス」のいずれかをクリックするとログイン画面を表示できます。

本体設定

本装置の IP アドレスなどのネットワーク情報や動作モード、ログイン情報、本体装置の時刻や SNMP 情報の設定を行います。

1

- ① クライアントパソコンの Web ブラウザを起動して本装置にログインします。詳細は「ログイン・ログアウト」(3 ページ) を参照してください。
- ② 画面左側のメニューから「本体設定」をクリックします。
・【本体設定】画面が表示されます。

クリック
します。



【本体設定】画面

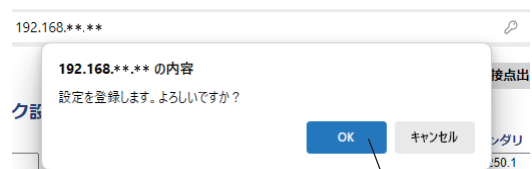
ネットワーク
設定欄

動作モード
設定欄

[登録] ボタン

2

- ① 各欄における値を設定します。
- ② 「登録」 ボタンをクリックします。
・ネットワーク設定欄や動作モード設定欄の設定値が変更された場合は、本装置が再起動されます。



クリックします。

本体設定

1. ネットワーク設定

本装置の IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイなどを設定します。監視先機器との接続にホスト名を使用する場合は、DNS プライマリ、DNS セカンダリを設定してください。DNS サーバの情報が一つの場合は「DNS プライマリ」に設定してください。

※ クライアントパソコンやサーバ装置などが異なるネットワークに接続される場合には、ゲートウェイの設定も必要です。

※ IP アドレスなどの情報は、ネットワーク管理者に確認してください。（初期値：IP アドレス 192.168.0.130、サブネットマスク：255.255.255.0）

※ 「web ポート番号」「接点伝送ポート番号」「API 連携モードポート番号」は、以下の設定範囲内で設定できます。

- ・ web ポート番号 設定範囲：80, 1024 ～ 65535（初期値：80）
- ・ 接点伝送ポート番号 設定範囲：1024 ～ 65535（初期値：51500）
- ・ API 連携ポート番号 設定範囲：80, 1024 ～ 65535（初期値：8080）

※ PBS 連携ポート番号は、「56005」固定となります。

ネットワーク設定

本体IPアドレス	本体サブネットマスク	本体ゲートウェイ	DNSプライマリ	DNSセカンダリ
<input type="text" value="192.168.0.130"/>	<input type="text" value="255.255.255.0"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
webポート番号	接点伝送ポート番号	API連携ポート番号	PBS連携ポート番号	
<input type="text" value="80"/>	<input type="text" value="51500"/>	<input type="text" value="8080"/>	<input type="text" value="56005"/>	



ワンポイント

- PBS 連携モードでは、本画面から「本体 IP アドレス」「本体サブネットマスク」「本体ゲートウェイ」を設定することはできません。当社の製品「自動放送機能付プログラムチャイム PBS-D600/PBS-D500 II」から設定を行ってください。
- 「接点伝送ポート番号」は、接点伝送モードでのみ使用します。
- 「API 連携ポート番号」は、API 連携モードでのみ使用します。
- 「PBS 連携ポート番号」は、PBS 連携モードでのみ使用します。

2. 動作モード設定

本装置の動作モードを選択して設定します。（初期値：接点伝送モード）

動作モード設定

☒ 接点伝送モード ☐ タイマーモード ☐ 機器監視モード ☐ API連携モード ☐ PBS連携モード



ワンポイント

- 動作モードの変更時には再起動が必要となり、各動作モードの設定内容は初期化されます。

3. ログイン設定

本装置に Web ブラウザからログインするためのユーザー ID、パスワードなどを設定します。

ログイン設定

ユーザー ID	パスワード	パスワード (再入力)	自動ログアウト時間
<input type="text"/>	<input type="password"/>	<input type="password"/>	0分 ▼
A	B	C	D

A：ユーザー ID

ログインするユーザーのユーザー ID を設定します。

- (1) ユーザー ID 欄をクリックして、キーボードから ID を入力します。

・設定範囲：半角英数 最大 32 文字 (初期値：admin)
※記号は使用できません。

B：パスワード

パスワードを変更する場合はパスワードを設定します。

- (1) パスワード欄をクリックして、キーボードからパスワードを入力します。

・設定範囲：半角英数 最大 32 文字 (初期値：admin)
※ - (ハイフン)、_ (アンダーバー)、. (ドット)、~ (チルダ) 以外の記号は使用できません。

C：パスワード (再入力)

「B：パスワード」で設定した値を設定します。

- (1) パスワード (再入力) 欄をクリックして、キーボードからパスワードを再度設定します。

D：自動ログアウト時間

ログイン中に Web ブラウザ画面上で何も操作しない状態が設定時間継続したときに、自動でログアウトします。

- (1) 設定欄の [▼] をクリックします。
(2) 表示されるメニューで設定を選択します。
・設定範囲：0 分 (ログアウトしない)、5 分、10 分、15 分、30 分 (初期値：0 分 (ログアウトしない))

4. 名称

【状態】画面に表示される装置名や接点入力名を設定します。【状態】画面については、各動作モードの取扱説明書を参照してください。

名称		
装置名	接点入力名1	接点入力名2
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	接点出力名1	接点出力名2
	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	C	

A：装置名

本装置の名称を設定します。

- (1) 装置名欄をクリックして、キーボードから装置名を設定します。

・設定範囲：最大 20 文字
※ " (ダブルクォーテーション)、' (シングルクォーテーション)、¥ (円マーク) および機種依存文字は使用できません。

B：接点入力名 1/ 接点入力名 2

本装置の接点入力の名称を設定します。接点伝送モードや PBS 連携モードで使用します。

- (1) 接点入力名 1/ 接点入力名 2 それぞれをクリックして、キーボードから接点入力名を設定します。

・設定範囲：最大 20 文字
※ " (ダブルクォーテーション)、' (シングルクォーテーション)、¥ (円マーク) および機種依存文字は使用できません。

C：接点出力名 1/ 接点出力名 2

本装置の接点出力の名称を設定します。(初期値：接点出力 1/ 接点出力 2)

- (1) 接点出力名 1/ 接点出力名 2 それぞれをクリックして、キーボードから接点出力名を設定します。

・設定範囲：最大 15 文字
※ " (ダブルクォーテーション)、' (シングルクォーテーション)、¥ (円マーク) および機種依存文字は使用できません。

△アラームなし 接点出力1 ON OFF ファンシヨット 接点出力2 ON OFF ファンシヨット

設定した接点出力名が反映されます。



ワンポイント

- 動作モードを「PBS 連携モード」に設定した場合、装置名は変更できません。PBS 連携設定のコメントと同じ内容が表示されます。
- 以下の操作を行った場合、装置名は初期化されます。
 - ・「PBS 連携モード」へ動作モードを変更した場合。
 - ・「PBS 連携モード」から他の動作モードへ変更した場合。
 - ・「PBS 連携モード」の場合に、メンテナンス画面から登録値初期化を行った場合。

5. 時刻

本装置の時刻を設定します。手動で設定する方法と、NTP サーバからネットワーク経由にて、1 日 1 回自動で時刻を設定する方法があります。

A：指定日時

手動で、「年」「月」「日」「時」「分」「秒」を設定します。

- (1) 設定欄の ☒ をクリックします。
- (2) 表示されるメニューで設定を選択します。

・設定範囲：2000/1/1 ~ 2099/12/31
00 時 00 分 00 秒 ~ 23 時 59 分 59 秒

- (3) [設定] ボタンをクリックします。

※「指定した日時で時刻を更新します。よろしいですか？」のメッセージが出力されたら、[OK] ボタンをクリックします。

B：PC 日時

クライアントパソコンの日時を本装置に設定します。

- (1) [設定] ボタンをクリックします。

※「PC 日時で時刻を更新します。よろしいですか？」のメッセージが出力されたら、[OK] ボタンをクリックします。

C：NTP（初期値：無効）

日時を取得する時刻、時刻修正サーバ(NTP または SNTP サーバ) の IP アドレスまたはホスト名などを設定します。

- (1) 「NTP を使用する」のチェックボックスにチェックを付けます。
- (2) 修正する時刻を ☒ をクリックして設定します。
(初期値：01 時 00 分)
- (3) 時刻修正サーバの IP アドレス、またはホスト名をキーボードから入力します。

・設定範囲：

< IP アドレスの場合 >

IPv4 アドレス

< ホスト名の場合 >

半角英数および、. (ドット)、- (ハイフン) 255 文字

※ホスト名を使用する場合、DNS サーバ情報 (DNS プライマリ、DNS セカンダリ) の設定が必要です。詳細は「本体設定 1. ネットワーク設定」(5 ページ) を参照してください。

- (4) ポート番号 (時刻修正サーバの接続用ポート) を設定します。

※本装置の NTP 受信ポート番号は「123」固定です。

- (5) 【本体設定】設定画面下部にある [登録] ボタンをクリックします。

※「設定を登録します。よろしいですか？」のメッセージが出力されたら、[OK] ボタンをクリックします。

- (6) [補正実行] ボタンをクリックします。登録した時刻修正サーバに即時に時刻取得を行います。

※「NTP サーバに対して時刻修正テストを行います。よろしいですか？」のメッセージが出力されたら、[OK] ボタンをクリックします。

※時刻補正されるまで最大で 2 分程度の時間がかかります。



ワンポイント

- 「NTP を使用する」にチェックが付き、接続先 (「IP アドレス」または「ホスト名」) が設定されている場合には、本装置の起動時に NTP サーバから時刻取得を行い時刻が補正されます。

6. SNMP TRAP

SNMP マネージャへ、SNMP TRAP で本体アラームの発生・復旧、接点入力 ON・OFF の発生が通知できます。

The screenshot shows the 'SNMP TRAP' configuration page. It includes fields for 'コミュニティ名' (Community Name) with 'public' entered, and two 'トラップ通知先' (Trap Destination) fields. Below these is the '宛先ポート番号' (Destination Port Number) field with '162' entered. To the right are three configuration boxes: 'アラーム' (Alarm), '接点入力1' (Contact Input 1), and '接点入力2' (Contact Input 2). Each box has 'トラップ送信' (Trap Send) and '送信対象' (Send Target) settings. Labels A through F point to the following elements: A points to the 'コミュニティ名' field; B points to the 'トラップ通知先1' field; C points to the '宛先ポート番号' field; D points to the 'アラーム' box; E points to the '接点入力1' box; and F points to the '接点入力2' box.

A：コミュニティ名

SNMP TRAP メッセージを受信する先のコミュニティ名を設定します。

- (1) コミュニティ欄をクリックして、キーボードからコミュニティ名を入力します。
・設定範囲：半角英数および記号、最大 127 文字（初期値：public）

B：トラップ通知先 1、トラップ通知先 2

SNMP TRAP メッセージの送信先の IP アドレスを設定します。

- (1) トラップ通知先 1,2 欄をクリックして、キーボードから送信先の IP アドレスを設定します。

C：宛先ポート番号

SNMP TRAP メッセージの送信先のポート番号を設定します。

- (1) 宛先ポート番号欄をクリックして、キーボードからポート番号を設定します。
・設定範囲：1～65535（初期値：162）

D：アラーム

本体アラーム時に、SNMP TRAP メッセージを送信するか設定します。

- (1) 本体アラームによる SNMP TARP 送信する / しないを「トラップ送信」にて選択します。
・設定範囲：する、しない（初期値：しない）
- (2) SNMP TARP を送信するタイミングを「送信対象」にて選択します。
・設定範囲：発生、復旧、発生 / 復旧（初期値：発生 / 復旧）

E：接点入力 1

接点入力 1 が ON、または OFF に切り替わった際に SNMP TRAP メッセージを送信するか設定します。

- (1) 接点入力 1 の状態が切り替わった際に SNMP TARP 送信する / しないを「トラップ送信」にて選択します。
・設定範囲：する、しない（初期値：しない）
- (2) ON、または OFF どちらかに切り替わったタイミングで SNMP TARP を送信するかを「送信対象」にて選択します。
・設定範囲：ON、OFF、ON/OFF（初期値：ON/OFF）

F：接点入力 2

接点入力 2 が ON、または OFF に切り替わった際に SNMP TRAP メッセージを送信するか設定します。

- (1) 接点入力 2 の状態が切り替わった際に SNMP TARP 送信する / しないを「トラップ送信」にて選択します。
・設定範囲：する、しない（初期値：しない）
- (2) ON、または OFF どちらかに切り替わったタイミングで SNMP TARP を送信するかを「送信対象」にて選択します。
・設定範囲：ON、OFF、ON/OFF（初期値：ON/OFF）

メンテナンス

本装置の登録値のインポート、エクスポートや登録値の初期化、ファームウェアの更新、操作ログの保存など、メンテナンスに関する操作を行います。

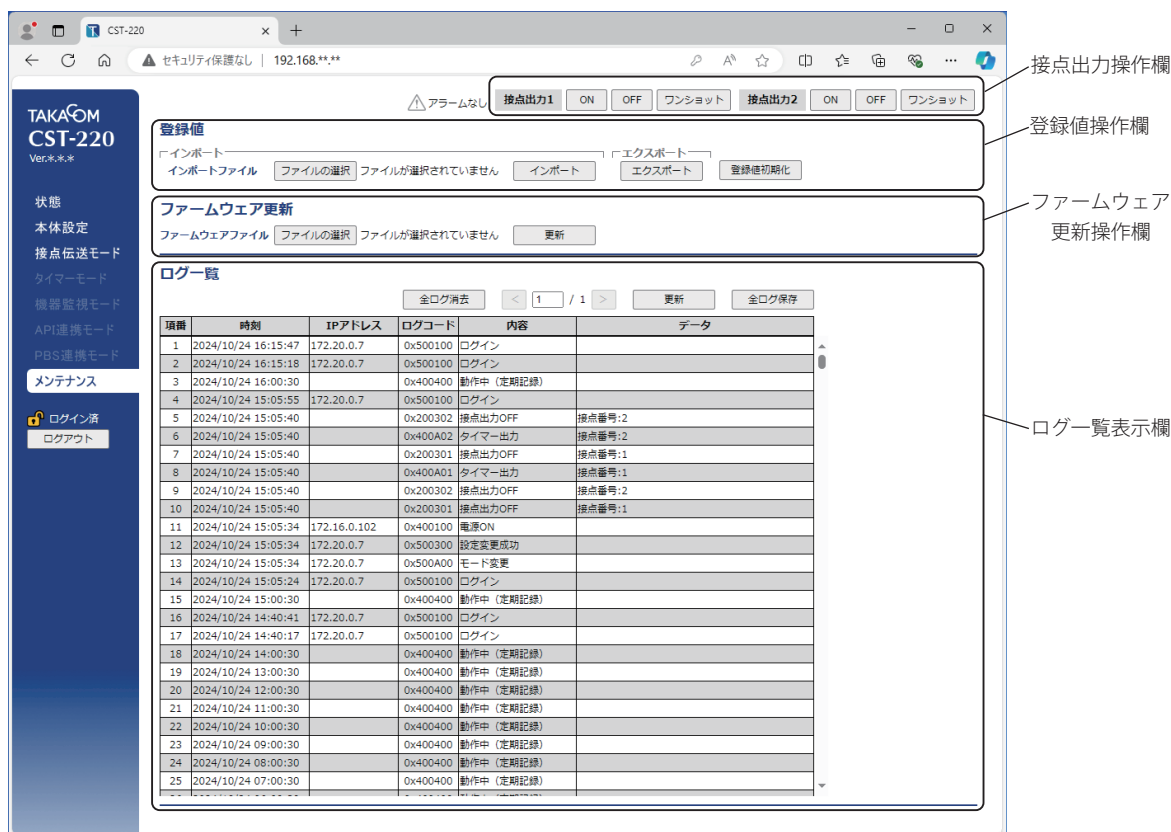
1

- ① クライアントパソコンの Web ブラウザを起動して本装置にログインします。詳細は「ログイン・ログアウト」(3 ページ) を参照してください。
- ② 画面左側のメニューから [メンテナンス] をクリックします。
・【メンテナンス】画面が表示されます。

クリック
します。



【メンテナンス】画面



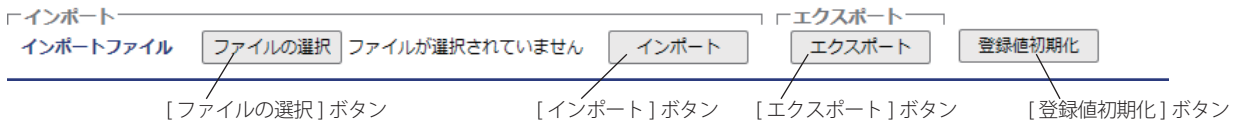
ワンポイント

- 接点出力操作欄における ON・OFF 操作はログインした状態であれば、全ての画面で操作できます。
- 接点出力操作欄におけるワンショット操作は、接点伝送モード、タイマーモード、API 連携モードで操作できます。
- 接点出力操作欄は、ログイン後に表示されます。
- メンテナンス画面を表示する際、本装置のランプ表示や接点出力、および接点伝送処理に約 0.5 秒の遅れが発生します。

1. 登録値

本装置の登録値のインポートやエクスポート、登録値の初期化ができます。

登録値



■ インポート

エクスポートされた登録値（※）をインポートすることができます。

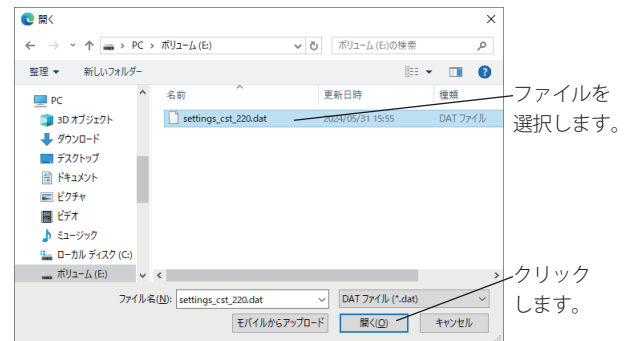
※ 本体設定におけるネットワーク設定の設定値は、「DNS プライマリ」、「DNS セカンダリ」のみインポートされます。

① 登録値操作欄の「ファイルの選択」ボタンをクリックします。

・ファイル選択画面が表示されます。

② インポートするファイルを指定して、「開く」ボタンをクリックします。

・【メンテナンス】画面が更新されます。



③ 「インポート」ボタンをクリックします。

・インポート確認の案内が表示されます。



④ 「OK」ボタンをクリックします。

・“設定のインポートに成功しました。本体装置を再起動しているため、しばらく経ってから接続してください。”の案内が表示されます。



ワンポイント

- 動作モード設定で「PBS 連携モード」を選択している登録値はインポートができません。

■ エクスポート

本装置の現在の登録値をエクスポートすることができます。

① 「エクスポート」ボタンをクリックします。

・ダウンロードフォルダに登録値が保存されます。



お願い

- データの保存場所に、「C ドライブ」直下や「Program Files」などのシステムフォルダを指定しないでください。



■ 登録値初期化

本装置の現在の登録値を初期値に戻します。**本装置に入力端子や出力端子が接続されている場合は、接続を外してください。**

STOP お願い

- 本装置の出力端子を接続したまま初期化しないでください。本装置の出力端子を接続したまま初期化を行うと、接続機器に誤信号を送信するおそれがあります。

● Webブラウザから初期化する場合

「ログ一覧」と「本体設定」以外の選択モードの設定値を初期値に設定します。

- ① 本装置とクライアントパソコンを市販の LAN ケーブルで直接接続してください。詳細は設置説明書「設置 2. IP アドレスの設定 準備」を参照してください。
- ② [登録値初期化] ボタンをクリックします。
 - ・登録値初期化確認の案内が表示されます。
- ③ [OK] ボタンをクリックします。
 - ・登録値の初期化を開始します。

接点出力2 ON OFF ワンショット

「エクスポート」
エクスポート 登録値初期化

クリックします。



クリックします。

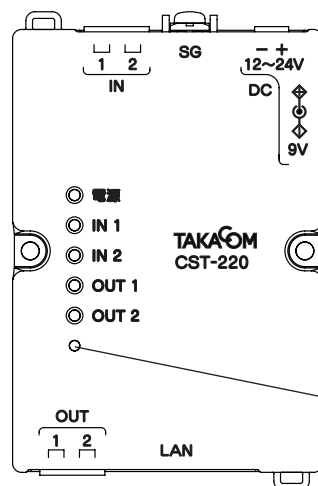
本装置の電源ランプが点滅したあと、再度点灯したら初期化の完了です。

電源ランプについては、設置説明書「各部の名前とはたらき ランプ表示について」を参照してください。

● 本装置から初期化する場合

「ログ一覧」以外の内容を初期値に設定します。本装置の IP アドレスを含む「ネットワーク設定」が初期値に変更されます。

- ① 本装置から電源アダプタを外します。
 - ※ PoE 対応ハブを使用している場合は、本装置から LAN ケーブルを外します。
- ② 本装置の接点出力停止スイッチを、先の細い工具などで押しながら本装置に電源アダプタを接続します。
 - ※ PoE 対応ハブを使用している場合は、本装置に LAN ケーブルを接続します。
- ③ 本装置の全てのランプが点滅したら接点出力停止スイッチを離します。本装置のランプについては、設置説明書「各部の名前とはたらき ランプ表示について」を参照してください。



接点出力停止スイッチ

電源ランプが点灯したら初期化の完了です。

ワンポイント

- 「IP アドレス」、「サブネットマスク」、「ユーザー ID」、「パスワード」の初期値は以下になります。
 - ・ IP アドレス : 192.168.0.130
 - ・ サブネットマスク : 255.255.255.0
 - ・ ユーザー ID : admin
 - ・ パスワード : admin

2. ファームウェア更新

本装置のファームウェアが更新できます。

ファームウェア更新

ファームウェアファイル **ファイルの選択** ファイルが選択されていません **更新**

[ファイルの選択] ボタン

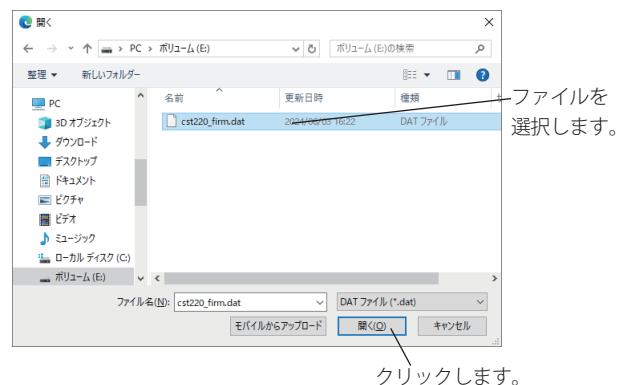
[更新] ボタン

- ① ファームウェア更新操作欄の「ファイルの選択」 ボタンをクリックします。

- ・ファイル選択画面が表示されます。

- ② ファームウェアファイルを指定して、[開く] ボタンをクリックします。

- ・【メンテナンス】画面が更新されます。



- ③ ファームウェア更新操作欄の「更新」 ボタンをクリックします。

- ・ファームウェア更新確認の案内が表示されます。

ファームウェア更新

ファームウェアファイル **ファイルの選択** ファイルが選択されていません **更新**

クリックします。

- ④ [OK] ボタンをクリックします。

- ・“ファームウェアの更新に成功しました。本体装置を再起動しているため、しばらく経ってから接続してください。”の案内が表示されます。



STOP お願い

- ファームウェアの更新中は、Web ブラウザを閉じたり本装置の電源供給を停止しないでください。
- ファームウェアの更新後は、キーボードの「Ctrl」+「F5」キーを押して、Web ブラウザの再読み込みを行ってください。

3. ログ一覧

本装置の操作および動作のログ情報（履歴情報）を確認や、ログ情報の保存、消去ができます。

[全ログ消去] ボタン

[更新] ボタン

[全ログ保存] ボタン

ログ一覧

全ログ消去

< 1 / 91 >

更新

全ログ保存

項番	時刻	IPアドレス	ログコード	内容	データ
1	2024/05/30 16:40:14		0x200302	接点出力OFF	接点番号:2
2	2024/05/30 16:40:14		0x400A02	タイマー出力	接点番号:2
3	2024/05/30 16:40:14		0x200301	接点出力OFF	接点番号:1
4	2024/05/30 16:40:14		0x400A01	タイマー出力	接点番号:1
5	2024/05/30 16:42:09	192.168.12.65	0x500900	時刻手動補正	
6	2024/05/30 16:39:47	192.168.12.65	0x500100	ログイン	
7	2024/05/30 16:00:30		0x400400	動作中（定期記録）	
8	2024/05/30 16:00:00		0x200302	接点出力OFF	接点番号:2
9	2024/05/30 16:00:00		0x400A02	タイマー出力	接点番号:2
10	2024/05/30 16:00:00		0x200301	接点出力OFF	接点番号:1
11	2024/05/30 16:00:00		0x400A01	タイマー出力	接点番号:1
12	2024/05/30 15:00:30		0x400400	動作中（定期記録）	
13	2024/05/30 14:00:30		0x400400	動作中（定期記録）	
14	2024/05/30 13:00:30		0x400400	動作中（定期記録）	
15	2024/05/30 12:00:30		0x400400	動作中（定期記録）	
16	2024/05/30 11:00:30		0x400400	動作中（定期記録）	
17	2024/05/30 10:00:30		0x400400	動作中（定期記録）	
18	2024/05/30 09:00:29		0x400400	動作中（定期記録）	
19	2024/05/30 08:00:30		0x400400	動作中（定期記録）	

■ ログを確認する

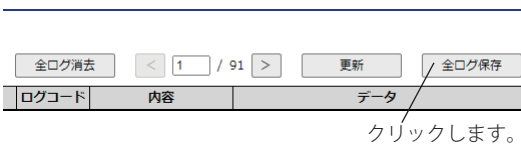
本装置に保存された最大 90000 件までのログ情報を最新のログからログ一覧表示欄に表示できます。ログ情報は 1000 件ずつページに分割して表示されます。[更新] ボタンをクリックすると、表示されているログ情報を最新の内容に更新できます。

- ・[<]をクリックすると、前ページが表示されます。
- ・[>]をクリックすると、次ページが表示されます。

■ すべてのログを保存する

すべてのログを CSV 形式（カンマ区切り）、文字コードは UTF-8 でファイルに保存することができます。

- ① [全ログ保存] ボタンをクリックします。
- ・ダウンロードフォルダにログが保存されます。

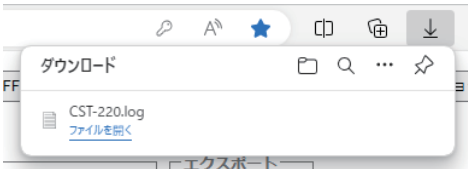


STOP お願い

- データの保存場所に、「C ドライブ」直下や「Program Files」などのシステムフォルダを指定しないでください。

ワンポイント

- ログの保存中やログ一覧を更新する際、本装置のランプ表示や接点出力、および接点伝送処理に約 0.5 秒の遅れが発生します。



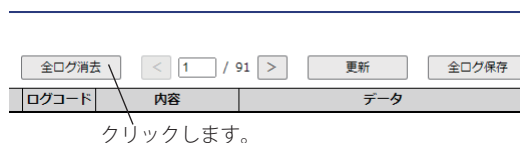
■ すべてのログを消去する

本装置に保存されているログをすべて消去します。パソコンに保存したログは消去されません。

※ ログの消去中は、本装置の動作が一時的に停止します。

① [全ログ消去] ボタンをクリックします。

・ ログ消去確認の案内が表示されます。



② [OK] ボタンをクリックします。

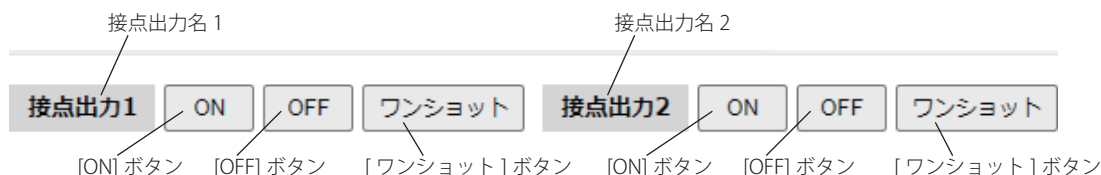
・ ログが消去されます。



4. 接点出力の手動操作

本装置の出力端子 1,2 からの接点出力を手動で ON・OFF にしたり、ワンショットを出力することができます。

「接点出力名 1」「接点出力名 2」の表示（名称）は変更できます。詳細は「本体設定 4. 名称」（6 ページ）を参照してください。



■ 接点出力の ON

本装置の出力端子 1,2 からの接点出力を手動で ON にするには、Webブラウザから行います。

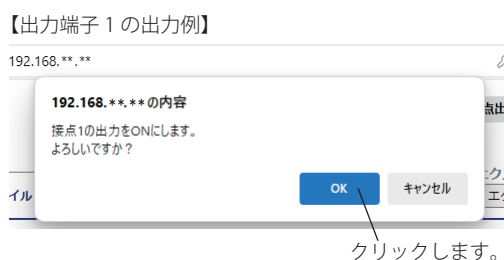
① 接点出力操作欄の出力端子側の [ON] ボタンをクリックします。

※ 出力端子 1,2 ごとに、接点出力を ON にできます。
・ 出力確認の案内が表示されます。



② [OK] ボタンをクリックします。

・ 出力端子の接点出力を ON にします。



■ 接点出力の OFF

本装置の出力端子 1,2 からの接点出力を手動で OFF にするには、Webブラウザまたは、本装置の「接点出力停止スイッチ」から行います。

● Webブラウザから行う場合

① 接点出力操作欄の出力端子側の [OFF] ボタンをクリックします。

※ 出力端子 1,2 ごとに、接点出力を OFF にできます。
・ 出力確認の案内が表示されます。



② [OK] ボタンをクリックします。

・ 出力端子の接点出力を OFF にします。



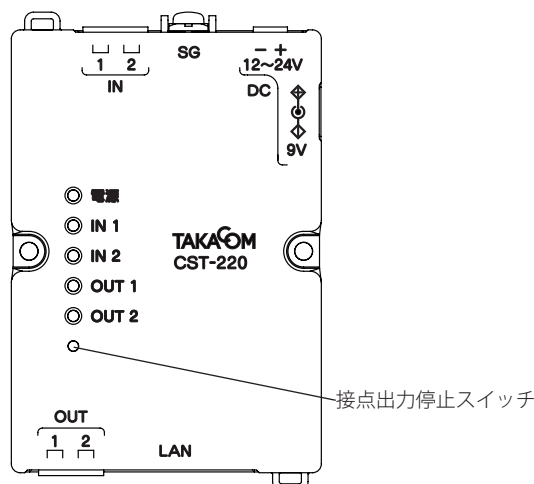
● 本装置から行う場合

<出力端子 1 の OFF >

- ① 本装置の接点出力停止スイッチを、先の細い工具などで 1 回押します。
 - ・ 出力端子 1 の接点出力を OFF にします。

<出力端子 2 の OFF >

- ① 本装置の接点出力停止スイッチを、先の細い工具などで 1 回押します。
 - ・ 出力端子 1 の接点出力を OFF にします。
- ② 再度本装置の接点出力停止スイッチを、先の細い工具などで 1 回押します。
 - ※ 2 回目の接点出力停止スイッチは、1 回目を押した後の 10 秒以内に押してください。
 - ・ 出力端子 2 の接点出力を OFF にします。

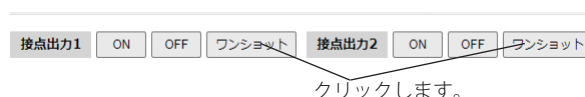


■ 接点出力のワンショット

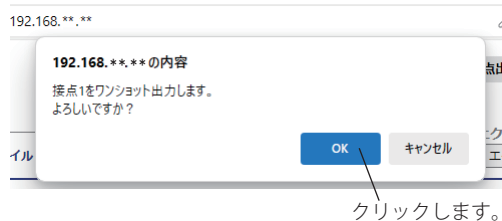
本装置の出力端子 1,2 から手動でワンショットを出力するには、Webブラウザから行います。

※ 本装置の動作モードが「接点伝送モード」「タイマーモード」「API 連携モード」の場合が対象で、接点出力機能が「アラーム出力」以外に設定された状態のときに、ワンショットが出力できます。

- ① 接点出力操作欄の出力端子側の [ワンショット] ボタンをクリックします。
 - ※ 出力端子 1,2 ごとに、ワンショット出力できます。
 - ・ 出力確認の案内が表示されます。
- ② [OK] ボタンをクリックします。
 - ・ 出力端子からワンショットを出力します。



【出力端子 1 の出力例】



ワンポイント

- ワンショットボタンを押して出力されるワンショット時間は、各動作モードの接点出力設定のワンショット時間に従います。

参考資料

■ ライセンス情報

本装置に組み込まれているソフトウェアは、それぞれ当社または第三者の著作権が存在する、複数の独立したソフトウェアコンポーネントで構成されています。

当社が開発または作成したソフトウェアおよび付帯するドキュメント類には当社の著作権が存在し、著作権法、国際条約およびその他の関連する法律によって保護されています。

フリーソフトウェアのソースコードの内容に関するお問い合わせはご遠慮ください。また、当社が所有権を持つソフトウェアコンポーネントについては、ソースコードの提供対象とはなりませんのでご了承ください。

本装置のソフトウェアの一部は、以下のライセンスに従ったソフトウェアを利用しています。

BSD License

Copyright (c) The Regents of the University of California.
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:
This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.
4. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED.

IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

使い方・取付け方などのご相談

●お電話から
お客様相談センター

 **0570-03-8811**

受付時間：月～金 9：00～17：30
(土・日曜日、祝日、当社指定休日除く)

●ホームページから

当社ホームページ「お問い合わせ」のフォームに
必要事項をご記入のうえ、ご送信ください。

<https://www.takacom.co.jp>

タカコム サポート

検索

修理に関するご相談

お買い上げの販売店様または
当社「修理センター」へお問い合わせください。

当社へのお問い合わせ先はホームページ「修理センター」をご覧ください。

<https://www.takacom.co.jp>

タカコム 修理センター

検索

株式会社 **タカコム**

本社・工場／〒509-5202 岐阜県土岐市下石町西山 304-709